

CNAレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

発行日：毎月 10 日・20 日・月末
創刊日：1999 年 12 月 8 日
編集 / 発行：橋本 啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 9. No.3 2007 年 1 月 31 日号

編集: editor@cna.jp 広告: pr@cna.jp 読者登録: <http://cna.jp>

Copyright 2007 CNA Report Japan. All rights reserved.

ニュース項目

アエスラ販売会社 ae コミュニケーションズ、IIJ 系ネットケアとアライアンスパートナー提携



アエスラ社製 Vega X5(ベガ・エックス・ファイブ)



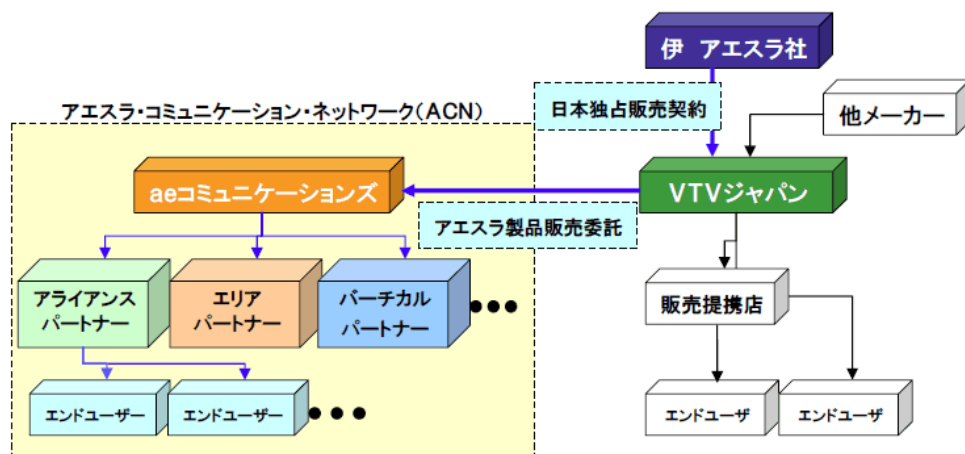
アエスラ社製 Vega X3(ベガエックス・スリー)

aethra (アエスラ) テレビ会議システムを専門に販売する ae コミュニケーションズ株式会社(東京都千代田区)は、IIJ グループでコンタクトセンターやネットワークの運用アウトソーシング事業を展開する株式会社ネットケア(東

京都新宿区)と、アエスラ製テレビ会議システムの販売を目的としたアライアンスパートナー契約を締結。

ae コミュニケーションズは、2006 年 5 月 23 日に VTV ジャパン株式会社(東京都千代田区)と、世界市場第四位のイタリアのテレビ会議メーカーアエスラ社が、日本市場におけるアエスラ製品の浸透を目的として設立した専門販売会社。VTV ジャパンがイタリアアエスラ社と日本国内における独占販売契約を締結しており、ae コミュニケーションズは、VTV ジャパンより販売委託を受ける。そして、ae コミュニケーションズは、販売委託を受けたアエスラ製品を、販売契約をした ACN(アエスラ・コミュニケーション・ネットワーク)代理店に供給する。ACN代理店は、販売方法や販売地域などによって、アライアンスパートナー、エリアパートナー、バーチカルパートナーに区別、各パートナーの強みを生かした販売戦略を展開する販売展開モデルを、VTV ジャパン、アエスラ社、ae コミュニケーションズは、構築。アエスラ製品の日本市場での普及を目指す。

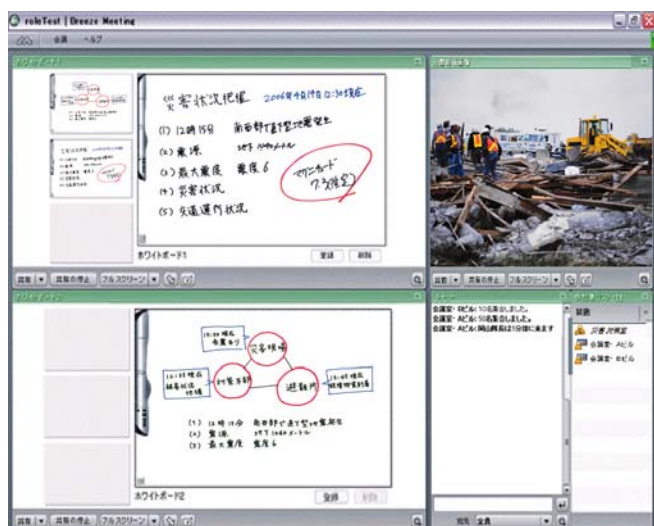
今回の提携で、VTV ジャパンが持つ 10 数年以上の国内販売パイオニアとしての販売ノウハウとともに、ae コミュニケーションズからアエスラ製テレビ会議システムを提供することで、ネットケアは、アライアンスパートナーとしてテ



レベ会議ソリューションをより強化してコンサルティングから運用までのワンストップソリューションを提供する考え。

ネットケアは、株式会社インターネットイニシアティブ、株式会社 CRC ソリューションズ、日揮株式会社などを主要株主とし、1998年2月に設立。IJで培ってきたネットワーク運営支援事業の経験を生かした、コンタクトセンターの運用・管理、ネットワークの障害対応・監視を含むサポート、企業のヘルプデスクなどネットワークの運用管理などのソリューションサービスに強みを持つ。

NEC、ホワイトボードとWeb会議などを活用した緊急時のリアルタイム情報収集共有システム



日本電気株式会社(東京都品川区、以下 NEC)は、自然災害や事故発生時などの緊急時に、災害情報や指示事項のリアルタイムな収集・共有を支援する「UNIVERGE 緊急対策会議ソリューション」を昨年2006年11月に販売開始。

UNIVERGE 緊急対策会議ソリューションは、企業や官公庁が災害・事故発生時に、被害情報を収集し意志決定を行う際、災害対策本部や各拠点がホワイトボードに書き込む被害情報や被災地の映像・音声を、各所各人が用いるPCのWeb会議システム画面上で、複雑な操作を行うことなくリアルタイムに複数拠点間で共有できるもの。

このシステムは、東日本電信電話株式会社栃木支店の防災対応におけるニーズを取り入れて開発した。同支店では、栃木県内の同社主要建物を「B フレッツ」などで接続し UNIVERGE 緊急対策会議ソリューションを活用している。

システムとしては、オフィスなどで活用されている一般的なホワイトボードと、そのホワイトボードに書いた内容をデジタルデータに変換するホワイトボードレコーダー「ココヨ mimio Xi」、IP ベースの Web 会議システム「Adobe Acrobat Connect Professional」、ヘルメットに装着した小型カメラと接続し災害現場の映像や音声をリアルタイムに配信する「UNIVERGE WNX サーバ」、そして、これらを連携させるソフトウェア(日本 SGI 製)などから構成される。

特長としては、(1)オフィスにあるホワイトボードとWeb会議システムを連携させており、情報を簡単に共有できる。(2)手のひらサイズ(重量約180g)で小型軽量かつ、接続したカメラを装着したウェアラブルコンピュータを連携させ、災害・事故現場の映像情報も即座に共有が可能。(3)IPテレフォニーサーバと連携し、電話からのWeb会議参加も可能。

このシステムは、UNIVERGE パートナープログラムに参加している、アドビシステムズ株式会社(東京都品川区)、日本 SGI 株式会社(東京都渋谷区)、ココヨ株式会社(大阪市東成区)の各社の製品とノウハウを集結し商品化したもの。

NECは、都道府県防災システムにおいて約40%のシェアを有する。企業向けの防災対策システムやサービスで多数の納入実績がある。同社では、今後も企業や官公庁の災害・事故対策を支援する総合的なソリューションの開発販売に積極的に取り組みたいと考えている。

UNIVERGE 緊急対策会議ソリューションの販売価格は、800万円(税別)～。NECとしては、今後3年間で500社への導入を目指す。

NEC 窓口部門は、UNIVERGE インフォメーションセンター。

家電量販店ノジマ、TANDBERG ビデオ会議システムの導入拡大

タンバーク日本支社(東京都港区)の発表によると、家電量販店ノジマ(神奈川県横浜市)は、同社の本社及び子会社など6法人において活用していた TANDBERG ビデオ会議システムを、ノジマが吸収合併した「真電」(新潟県新潟市)においても採用した。

ノジマは、従来パソコンを利用する簡易型のテレビ電話を利用していたが、使い勝手が悪い、画面が小さく表情が伝わらないなどの難点を抱えていた。そこで、取引先から TANDBERG ビデオ会議システムを紹介され、数社のビデオ会議システムを併行して検討したが、最終的に TANDBERG のビデオ会議システムを採用。

社内のコミュニケーション基盤として、また、出張削減などによる意志決定のスピードアップと迅速な水平展開、経営者の意志の伝達手段として、社内で積極的に活用していた。そしてビデオ会議システムの社内評価も定着しつつある中、運用実績から、今回吸収合併する真電にも TANDBERG 製を採用することにした。

ノジマによると、パソコンタイプの簡易テレビ電話から専用のビデオ会議システムへ更改した理由として、画質と音声の良さを挙げる。それに加え、テレビを見る感覚でリモコン操作も良いという点、そしてシステムの拡張性と運用性などを考慮した。また、TANDBERG スタッフのニーズをおさえた適切な提案とともに迅速な導入が出来たところを評価する。

株式会社ノジマは、1982年設立、1994年にJASDAQ上場。IT、情報、携帯、オーディオビジュアル、家庭用ゲーム、ゲームソフト、DVDソフト、CDソフトの販売、提案、修理保守、配線工事、中古品リサイクル、ソロン(携帯電話一次代理店)の運営、テレマックス(駅前携帯ショップ)、インターネット通販のイーネットジャパン(ヘラクレス上場、グループ企業)などの事業を展開している。

神戸情報大学院大学田村教授：遠隔教育システムの構築運用の複雑化、教育学習の最大化を実現する遠隔教育システム構築運用にあたってルール化を図る。産官学共同のコンソーシアム設立も視野に

長年遠隔教育の分野で、テレビ会議システムを活用した教育を研究し多数実績を持つ、神戸情報大学院大学情報技術研究科 情報システム専攻 田村武志教授(大阪府立大学名誉教授兼任)は、現在効果的な遠隔授業について研究を進めており、遠隔授業を教室やネットワーク環境、通信装置などのフィジカル要因と、教授方法、コンテンツ、機器操作などのヒューマン要因とに分け、それぞれにおける基準をOSI参照7階層モデルに似て階層化し定義する取り組みを、メーカーやユーザーなどと協力し行っている。

OSI参照7階層モデルとは、通信関係の用語で、違った通信端末間のデータ通信を可能とするため、その通信端末が必要とする通信機能を階層構造に分割し定義したモデルをいう。通信端末はこの階層定義に沿って通信機能を実装することで他の通信端末と通信が行える。通信端末同士が通信を行えるためのルール化(それをプロトコルと呼ぶ)した手順を指す。

田村教授はOSI参照7階層モデルの考えを遠隔教育におけるシステム構築に応用させようと考えた。

階層化してプロトコルとして定義する背景について、田村教授は以下のように説明する。「今までの遠隔授業の長年の取り組みからわかってきたことだが、メーカーから販売されている機器などは非常に良いものが多いが、それら端末、プロジェクタ、照明、LAN環境、など全てを調和的かつ統合的に組み合わせること、そして、その組み合わせられたシステムを運用・操作するのは利用者側から見て複雑になってきた。」

つまり、関係する機器の多様化と複雑化、高性能化などで、遠隔教育システムを構築し運用する際の難しさや煩雑さなどが逆に多くなってきたということだ。

そこで田村教授は、システム構築、運用などに対して一定のルールを設けることによって、それらの問題を軽減させたいと考えた。「部屋の室内環境からシステム機器やコンテンツ作成、授業運営方法、システム操作方法などをプロトコル化(ルール化)することで、ユーザーや遠隔教育システムを構築するシステムインテグレータが、システムを構築する際に参考となる指標となり得る。特に、これから初めて遠隔教育の実施を計画している場合やもっと効果的に遠隔教育を行いたい場合、あるいは、海外の学校等との遠隔教育プロジェクトなどにおいてルール化されたものがあれば効率よくプロジェクトが行えるというメリットもある。」

田村教授は、OSI 参照 7 階層モデルの例にそって、遠隔授業実施における場合に必要となる要素を機能として7つの層に分け、それら各層の機能をプロトコルとして定義する考えだが、その7つの層は、フィジカル要因層とヒューマン要因層とに分かれる。

フィジカル要因層とは、物理空間層、端末機器層、ネットワ

ークコネクション層の、ネットワークや通信機器、教室などシステムハードウェア関係のプロトコル化を定義したものを指す。それに対して、ヒューマン要因層は、機器操作層、教材コンテンツ層、教授層、評価層など、遠隔教育を行う上での操作方法やコンテンツ作成、教授法、などを定義したプロトコル層になる。

それぞれの層が具体的に何を定義しているか見てみる。まず、フィジカル要因層について、第1層の物理空間層では、教室、机、椅子、LAN 配線、コンセント、照明などを規定。第2層の端末機器層では、プロジェクタスクリーン、コーデック、MCU、モバイル端末。たとえば、スクリーンについては、サイズ、視野角(25 度から 30 度が臨場感が保てる)、明るさ、音量、音質などが含まれる。第3層ネットワークコネクション層は、プロトコル(H.323、SIP、独自)、コネクティビティ、多地点接続、画像品質、QoS など。

次に、ヒューマン層では、第4層の機器操作層では、講師の負荷軽減、快適な機器操作、簡単操作を実現するた

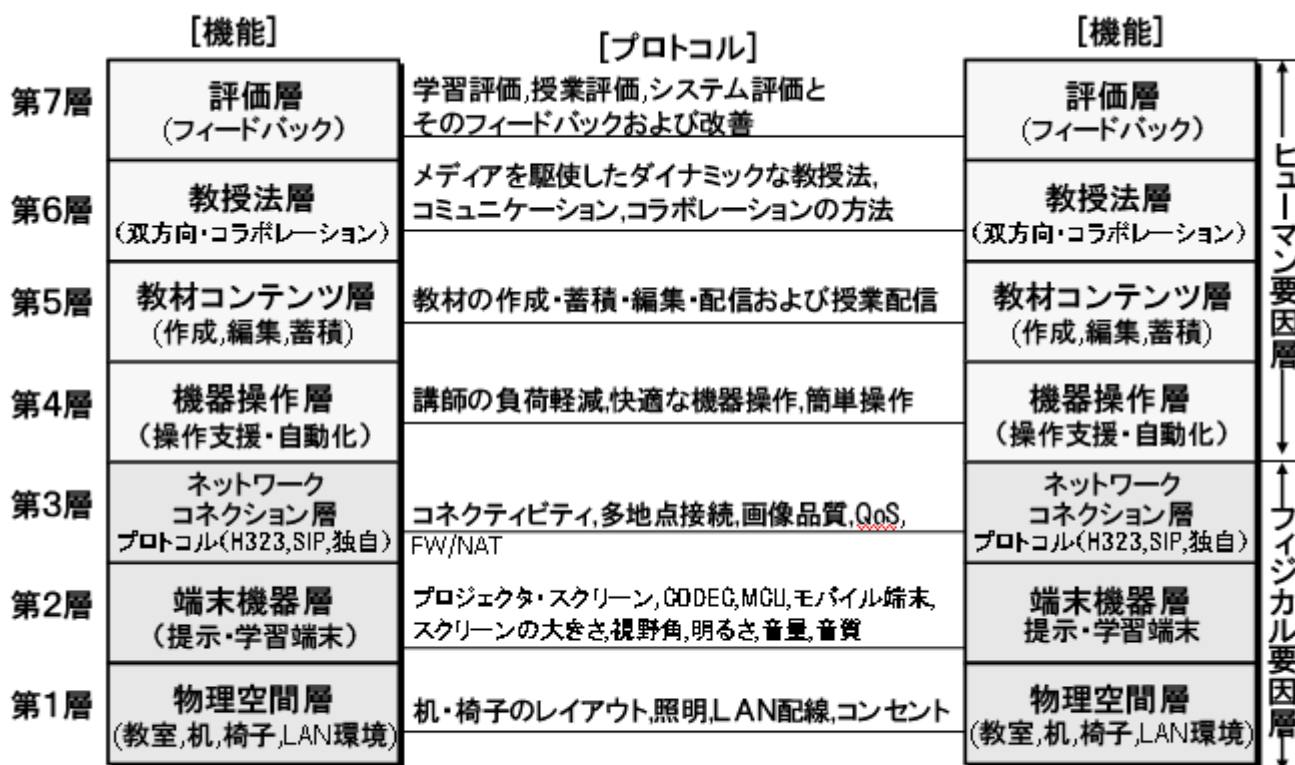
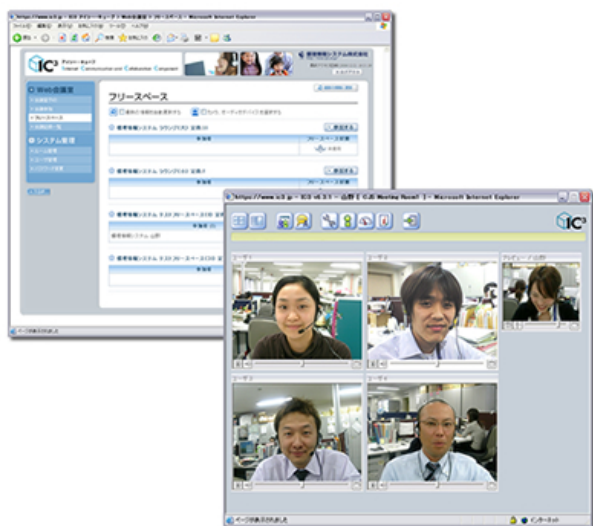


図 遠隔教育の7階層モデル

めの操作支援や操作の自動化を規定。第5層の教材コンテンツ層では、教材の作成、蓄積、編集、配信及び授業配信方法。第6層の教授法層では、メディアを駆使したダイナミックな授業運営方法や教師と生徒間の効果的なコミュニケーションや学習にともなうコラボレーション方法。第7層の評価層では、授業に伴う学習評価、システム機材使用に伴うシステム評価方法を規定する。

これらの定義された7層をプロトコルとして、実環境で遠隔教育のシステムを構築する際に参考とすることで、利用者とシステム構築を行うシステムインテグレータにとって、システムなどのハードの面と、人間が関わるソフトな面とバランスのとれたシステムの構築と運営が行えるようになる。「利用者側の教育学習の最大化だけではなく、メーカーや販売会社にとっても事業機会の創出に資すると考えるので、今後もこの階層化の理解と普及に向けて、積極的に取り組んでいきたい。また、それを後押しし、遠隔教育を普及促進するための産官学共同のコンソーシアム設立も実現に向けて始動したい。」と田村教授は抱負を述べる。

蝶理情報システム、手軽に Web 会議をスタートできるエントリー版パッケージの販売開始



IC³ Meeting Pack

蝶理情報システム株式会社(大阪府大阪市)は、同社の Web コラボレーション開発コンポーネント「IC³(アイシーキューブ)」のエントリー版パッケージ製品「IC³ Meeting Pack(アイシーキューブ・ミーティングパック)」を、2007 年 1 月初旬から販売開始している。

IC³ Meeting Pack は、IC³と、それに Web 会議用インターフェイスを追加する IC³ extension for Meeting(アイシーキューブ・エクステンション フォー ミーティング)をひとつにした、エントリー版 Web 会議システムパッケージ。

従来は、IC³を Web 会議用途で利用する場合、事前にオプション追加などのカスタマイズが必要だったのに対して、IC³ Meeting Pack は、すでに IC³とエクステンションがパッケージ化されているため、インストール後、すぐに Web 会議を利用することができる。

(IC³プロダクトレポート Vol.8 No.22 2006 年 8 月 31 日)

ブイキューブ、ウェブビデオ会議システムの新バージョンをリリース

株式会社ブイキューブ(東京都目黒区)は、2006 年 11 月に、同社の Flash ベースで開発された、ウェブビデオ会議システム「nice to meet you for ミーティング」の新バージョンを発表した。

nice to meet you for ミーティングは、2003 年 7 月から ASP サービスを開始し、H.323 のテレビ会議システム、Softbank(旧 Vodafone)や NTT ドコモの FOMA のテレビ電話などからも参加できるウェブ会議システム。また、セミナー向けやセールス向けのシステムも提供しており、これまでに約 400 社の導入実績があるという。

今回は、画像映像の品質の向上、資料貼りこみ時のアップロード処理の高速化、ホワイトボード描画負荷の軽減、FOMA 連携安定性の向上、録画再生時のパフォーマンス向上などシステム面での向上とともに、初心者だけでなく習熟したユーザーのニーズにも対応できるシステムをポイントに、新バージョンを発表した。

新バージョンによる新規追加あるいは追加の項目は多

岐に渡るが、基本的には、まず、初心者向けには、必要な全ての機能を1枚のウィンドウに配置して各ボタンに簡単な名称をつけるなどして初めて使う人にもすぐに慣れてもらえるため、操作環境を向上するとともに、習熟したユーザーには、たとえば、映像品質を調整できる解像度設定やフレームレート設定などを追加することで、nice to meet you for ミーティングの導入しやすさと使いやすさの特長をさらに強化した。



nice to meet you for ミーティング

新バージョンの概要については以下のとおり。

(1) ノック機能の追加。グループウェアの設備予約機能のイメージでウェブ上の会議室を予約することができる。また前の会議が延長していて会議室に入れなかったといった場合、ウェブ上の会議室一覧ページから会議参加者にメッセージを送る機能を追加。

(2) ログイン・メインメニュー画面の機能追加。メインページに予約状況表示や言語設定。

(3) 会議室関連の機能追加と変更。ホワイトボードファイルアップロード機能を追加。詳細設定ボタンを会議設定と環境設定に分けより細かく設定できるようにした。会議設定：パスワード、タイトル、入室拒否、マイクモードなど。環境設定：映像品質、フレームレート、LAN カメラコントロール、CPU 負荷軽減など。

(4) 会議セッション関連の機能。参加者へのメッセージ送信、資料事前アップロード、ウィンドウ最大化、オーディエン

ス関連(入退室、映像ウィンドウポップアップ)、残り会議時間表示、ホワイトボード(ページ一覧、直線ツール)、カメラ設定、カメラマイク選択プルダウン、録画開始・停止通知機能などの追加。

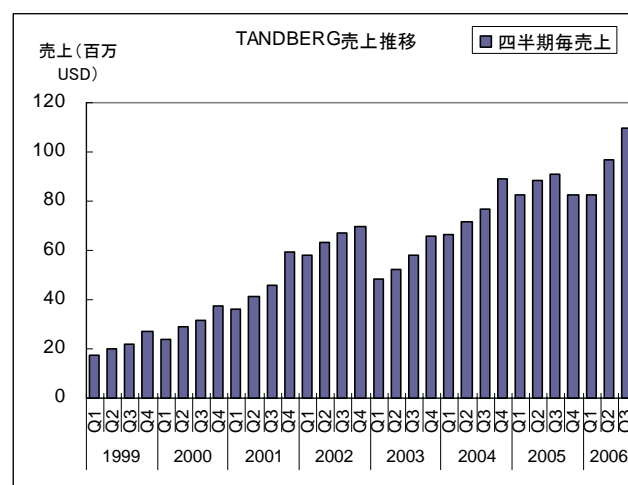
(5) ログイン後のページ変更。「会議予約・招待」が「会議予約」「会議変更」「会議一覧」の3つになる。会議履歴の表示件数が、10、20、50、100 件と選択可能。ページ一覧表示。FAQ ページや問い合わせフォームの追加など。

(6) アプリケーション機能の変更。「N2MY Messenger」が「N2MY Presence Appli」に変更。

海外 news : 2006 年第三四半期業績

米 NASDAQ 等上場企業から発表された業績状況のレポート。

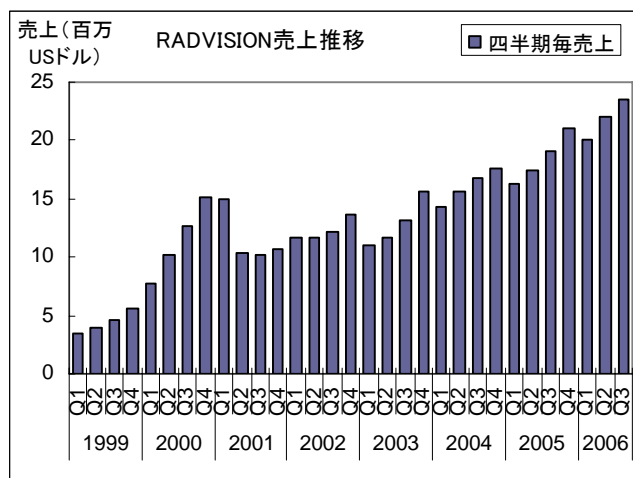
TANDBERG(ノルウェー)



ノルウェーのビデオ会議システムメーカーTANDBERG社の発表によると、2006年第三四半期(7月-9月期)の同社売上は、1億96万USD(約133億3000万円)と初の1億USDの大台を記録。端末販売台数も10,102台と過去最高台数を販売した。

売上の構成は、端末の売上が全体の70.2%、ネットワーク装置類は14.3%、プロフェッショナルサービス(コンサルティング、保守など)が15.5%の構成だった。

RADVISION(イスラエル)



イスラエルのラドビジョン社の発表によると、第三四半期の売上は、四半期の売上としては過去最高を記録し、2360万USD(約28億7000万円)となった。第一四半期から第三四半期の売上合計は、6570万USD(約79億8000万円)。

同社の事業は、MCU 製品などのネットワークインフラ製品関連のNBU部門と、H.323やSIPプロトコルスタックなど技術のライセンスを行うTBU部門からなるが、前者NBU部門は、2360万USDのうちの1770万USDをしめ、TBU部門は、590万USD。NBU部門は、企業向けの製品とサービスプロバイダー向けに分かれるが、企業向けが8割以上となっている。また、TBU部門売上のうち4割がライセンスによる売上となっている。

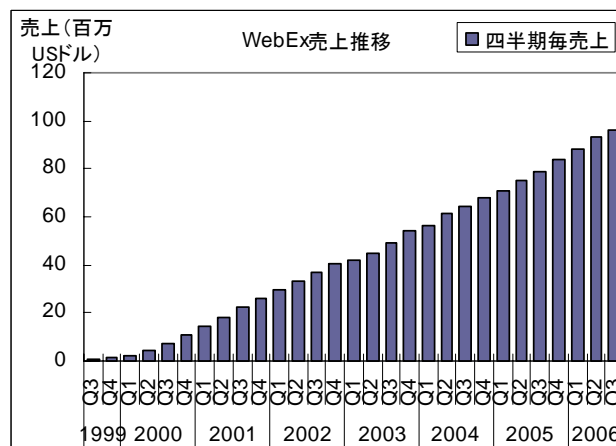
また、地域別売上構成では、北米が、62%、EMEA地域22%、アジア太平洋が16%。

WebEx Communications(米)

米Web会議ASPサービス大手のWebEx Communications社の第三四半期の売上は、9680万USD(約117億円)を記録し、過去最高の売上を計上した。全体の売上の85%は北米で海外は、15%。

サービス登録企業数は、同四半期で1,700増え、27,000社を記録。それに合わせ登録ユーザーアカウントも200万人を越えいずれも過去最高の登録数となった。全体の74%が月額費用を支払いサービスを利用する固定ユーザー。

26%は、利用毎にサービス料を支払うユーザー。



セミナー・展示会情報

NET&COM 2007

会期:2月7日(水)-9日(金)

会場:東京ビックサイト

主催:日経BP社

詳細:<http://itpro.nikkeibp.co.jp/netcom/index.html>

会議システム関連:IPコミュニケーションパビリオンを中心に
出展。NEC エンジニアリング、日立ハイテクノロジーズ
(LifeSize、Codian ビデオ会議製品)、プリンストンテクノロジー
(ポリコムHDビデオ会議)、ポリコムジャパン(奥田社長講演)、
プレミア グローバル サービス/プレミア コンファレンシング、
丸紅テレコムなど。

■WR Collaboration Summit 2007,Sydney, Australia

会期:2月14日-16日

会場:The Menzies Sydney Hotel(豪、シドニー)

主催:Wainhouse Research, LLC

詳細:<http://www.wainhouse.com/sydney07/>

編集後記

今号もお読み頂きまして有り難うございました。

前回1月20日号の編集後記でもお知らせいたしました
が、2月からは月2回の発行になります。発行日は、15日
と月末になります。

2月以降は、テーマレポートや特集レポート以外にも、
最近ご無沙汰しています、海外の専門誌である、
TeleSpan(米)、Videoconferencing Insight(英)、
Videoconferencing In Europe(独)、Wainhouse
Research(米)からの翻訳記事、海外企業のニュース記事
の掲載も積極的に行っていきたいと思っています。

今後とも宜しくお願い致します。

編集長 橋本啓介